

古屋山・梶ヶ谷山 保護林MAP

旧十和村の山懐深く太古の昔より自然のままに推納してきたアカマツの古屋山とモミの梶ヶ谷山。陽樹と陰樹が二極一対の天然林。マツ枯れ被害の防止で手が入った以外は、太古より四万十川流域にあった原始の森の姿のまま保護されている。

木々が倒れ森に空間がでると太陽光がさし込み、長い間休眠していた地中の種子が芽目をさまし、新しい森へと成長をはじめる。

こうして世代を越え、幾重にも重なる森林は、いまでも大切に守り、次の世代につないでいきたい。

ウロ(樹洞)
小さな穴はだんだん大きくなり、住む住人を変えながら長い年月、動物達のあみかとなる。何よりもあじれたエコ住宅である。

ムササビやフクロウ
など森の生き物には古くから木のウロ(樹洞)がかかせない。

モミの森を守る
モミレンジャー

梶ヶ谷山モミ保護林
8,51ha
昭和24年設定

初夏の頃モミの新緑のライトグリーンがひと味鮮やかに愛しく感じる。

アカマツ再生試験地
十和の山並みがよく見える。

初々しく又子の森
二つの保護林は尾根を境にアカマツとモミの森ができています。アカマツは陽樹で、森林の発達ステージ初期に二次林として生え、林が成立する。

アカマツはやがて森林の遷移にもなって、何百年かの後にはモミ、ツガの純林へ姿を変えていくことになる。

人の時間が流れる歴史の時間ならば、森の時間は絶えることなく巡る循環の時間だ。

アカマツの森を守る
マツレンジャー

何百年ものあいだ立ちつづけている巨樹群に出会える。

足元や頭上の枝葉などに十分気をつけて!!
安全第一!!

昭和の時代まではマツタケがとって採れていた。木身につけたりできるほど、全山マツタケの山だったという伝説になりつづける。

昭和の中頃まで人が暮らしていたところ。田んぼあと

古屋山アカマツ保護林
8,88ha
昭和24年設定

平家落人伝説が色濃く残る自然ゆたかな里。林業に携わる人からたいへん多く、四国各地の林業現場の中心となつて優れた技術を発揮している。

見上げると木々が枝を張り、緑の広がる豊かな森。何百年の間、一歩も動くことなく自分の力が立ち続ける巨木群。その中で生きるさまざまな生き物。森の中で生命は途切れることなく巡る。

古道マツは通達な良材として古くから有名で広く利用されてきた。近年はマツ枯れが深刻になっており、その優れたマツの姿はあきらましく残っていない。尾根ではネットを張って、地かき、草刈りなどを行い、古道マツ再生事業が行なわれており、次代へと受け継がれていく稚樹が生長している。

初夏には南の風よりヤブチウが飛来し、営巣、子育てをする豊かな深い森が広がっている。

人間は宇宙へ行く技術をもつて、葉っぱ一枚をつくることはできない。樹木や植物の力は、偉大な命だ。



モミ 木従
葉の先は若木は鋭くとがる。老木では丸くなる。

ツガ(トガ) 根...葉の先はあやうに八こんでトガらない。

モミとツガとがらう。

梶ヶ谷林道

十川へ